

NTTグループにおけるIoT事業創出に向けた取り組み

NTTグループでは、社会課題の解決やライフスタイル変革に向けて、B2B2Xモデルの取り組みを進めています。製造・農業・交通をはじめ幅広い産業分野において、さまざまなパートナー企業とのコラボレーションを通じて、エンドユーザ（X）に対して新しい付加価値を提供するため、IoT（Internet of Things）を活用した事業を展開しています。また、NTTグループの新たな事業への取り組みを情報発信するため、展示会などのプロモーション活動も推進しています。

NTTグループのIoTの取り組み

NTTグループでは、幅広い分野でさまざまなパートナーとのコラボレーションを通じ、社会課題の解決やライフスタイル変革に向けて、B2B2Xモデルの取り組みを進めています。また、ミドルBのサービス提供者がエンドユーザ（X）に対して新しい付加価値を提供するためには、NTTグループだけでなく異業種のパートナー企業とのイノベーションが重要であり、現在多様な可能性を期待されるIoT分野においても、その事業拡大に取り組んでいます（図1）。

IoTの事業創出に向けては、リアルやPoC（Proof of Concept：技術検証）からビジネス化へつなげることが重要な課題といわれています。

その課題解決に向けて、センサー等のIoTデバイスから収集したデータを単に「見える化」するだけでなく、データ分析などを使ったエンドユーザの課題解決や新たな価値創出が重要と考えられています。このようなデータ活用では、産業分野別にミドルBのサービス形態やエンドユーザの課題や価値も多様であり、分野ごとの業務知識や知見、ノウハウが必要です。そこで、

現在NTTグループでは、製造・農業・交通・スマートシティ・ヘルスケアなど幅広い産業分野において、さまざまなパートナー企業とIoTを活用した事業創出に向けてコラボレーションを進めています（図2）。

例えば、製造業におけるIoTの活用として、製造現場（工場）の工作機械などを一元管理し、より無駄なく効率的に運用することによる生産性向上が挙げられます。NTTグループでは、ファクトリーオートメーションの世界的サプライヤーであるファナック株式会社との協業により、工場内の産業用ロボットや大型工作機械の稼動状況などをリアルタイムに収集・分析し、工

すぎもと しんじ†1 よしの しゅういち†2

杉本 晋司 / 吉野 修一

ほりおか つとむ†1 あべ なおと†1

堀岡 力 / 阿部 直人

えんどう だいき†1

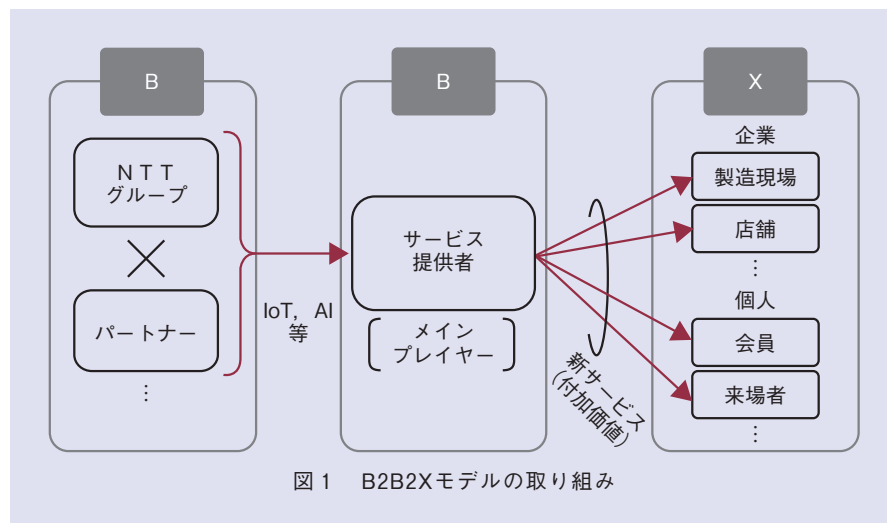
遠藤 大己

NTT研究企画部門†1

NTT未来ねっと研究所†2

作機械の異常や故障予兆の素早い検知による工場全体のダウンタイム削減や、工作機械を協調させることによる生産性向上につなげる取り組みを進めています。その中で、NTTグループは、エッジコンピューティングなどのR&D技術や、データ分析やクラウドサービスなどを活用して、リアルタイムのデータ収集・分析の実現に取り組んでいます⁽¹⁾。

また、農業分野では、生産者の高齢化や担い手不足が進む中で、農作業の自動化やスマート農機を活用した農作業の省力化、また農作物の栽培方法の最適化による生産量の安定化・収穫増などの課題が存在しています⁽²⁾。



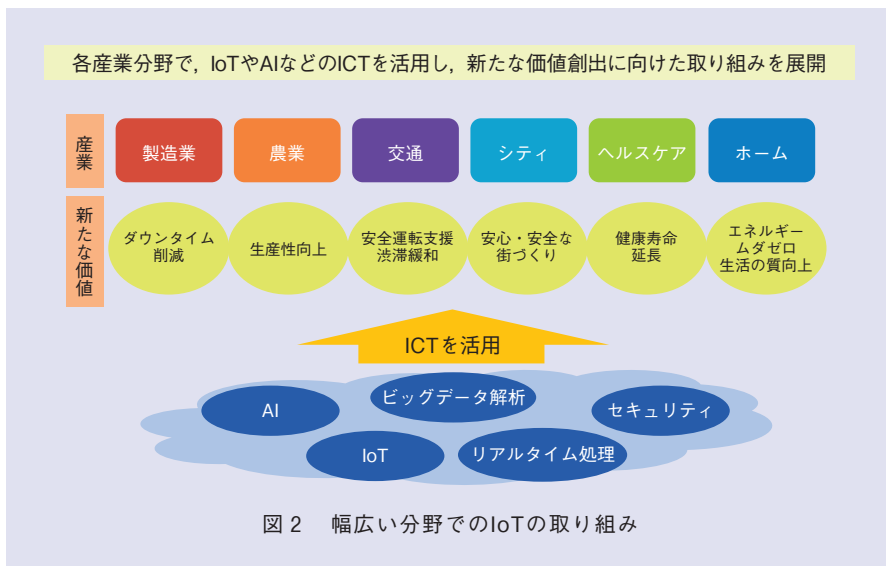


図2 幅広い分野でのIoTの取り組み

な仕組みや、データを活用した農業分野での価値創出を検討しています。さらに、その価値を活用し、パートナーが提供する農機や営農支援システムを高度化することにより、農業経営の見える化や作業効率化・自動化、高品質農業の実現に向け協業を進めています⁽³⁾。

そのほか、交通分野でも、バスの運行システムなどへバイタルデータを活用し、安全運転支援や業務効率化等をめざした取り組み等⁽⁴⁾、NTTグループはさまざまな分野のコラボレーションパートナーとともに、IoTによる新たな価値創出に向けた取り組みを進めています。

展示会を通じたプロモーション

NTTグループのIoTビジネスの取り組みを情報発信するため、NTT R&D フォーラムでの展示紹介に加えて、展示会などの外部イベントを活用したプロモーションも進めています。

2016年10月4～7日に幕張メッセで開催された「CEATEC JAPAN 2016」にNTTグループとして出展し、NTT東日本・西日本、NTTコミュニケーションズ、NTTドコモ、NTTデータの5社から、製造・流通/小売・シティ・ヘルスケア・農業・ホームの6分野でソリューション展示を行うとともに、プレゼンテーションステージでは各社のソリューションなどを紹介し、多くの来場者にNTTグループのIoTビジネスの取り組みを訴求しました(写真1)。

また、2017年3月20～24日にドイ



写真1 「CEATEC JAPAN 2016」のNTTグループブース

これに対し、農機メーカーの株式会社クボタとのコラボレーションにおいて、NTTグループ各社の無線技術・気象情報・地図情報などの最先端の

ICTサービスや、研究開発を進めているAI・IoT技術などを組み合わせ、屋外のさまざまな条件で圃場環境等のデータを効率的に収集するための最適



写真2 「CeBIT 2017」のNTTグループブース

ツのハノーバーで開催された「CeBIT 2017」にも出展しました(写真2)。世界70カ国から約3300社・団体が出展し、5日間で合計20万人以上が訪れた世界最大規模のIT展示会に、118社の日本企業・団体が「JAPANパビリオン」に出展し、NTTグループとして、ICTを活用したB2B2Xビジネスの代表的・先進的な事例を展示しました。具体的には、「製造」「農業」「交通」の3つの分野で、グループ各社のIoTを活用したコラボレーション事例について映像を中心に紹介しました。

NTTブースには、安倍晋三首相、アンゲラ・メルケル首相をはじめ、多くの政府関係者やVIPが訪れるなど、5日間で5000人以上のお客さまに来場いただき、また26社(うち海外20社)のTV、新聞などのメディアが取材するなど、グローバル向けにもNTTグ

ループの取り組みを紹介しました。

IoT事業は日々進展しており、タイムリーなグループ事業創出に向け、お客さまニーズや市場の反応を把握する貴重な機会として、このようなプロモーションを継続していきます。

今後の展開

今後もグループR&Dなどの先端技術を活用した市場開拓や新たな価値創出に向けて、NTTグループ総体となってトップパートナーとのコラボレーションを進めていきます。また、さまざまな産業分野における協業を通じて、分野横断的に共通に適用できる技術を見出し、IoTを活用できる事業分野の拡大をめざします。

■参考文献

- (1) <http://www.ntt.co.jp/news2016/1607/160728a.html>
- (2) <http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/>

[juyoukadai/chiiki_sigen/5kai/shigen05_shiry0308.pdf](http://www.ntt.co.jp/news2016/1606/160607a.html)

- (3) <http://www.ntt.co.jp/news2016/1606/160607a.html>
- (4) 近藤・山登・中山・千葉・坂口・西口・増田・吉田：“hitoe[®]によるナチュラル・センシングとその活用に向けた取り組み,” NTT技術ジャーナル, Vol.29, No.7, pp.13-18, 2017.



(上段左から) 杉本 晋司/ 吉野 修一/
堀岡 力

(下段左から) 阿部 直人/ 遠藤 大己

IoTを活用した事業創出に向けて、各産業分野のパートナー企業と連携して、分野ごとの課題やニーズを把握したうえで、現場に適した機能要件や性能要件を満たす技術やシステムを構築することが重要です。今後も幅広いパートナー企業とのコラボレーションを通じて、IoTビジネス拡大に取り組んでいきます。

◆問い合わせ先

NTT研究企画部門
プロデュース担当
TEL 03-6838-5361
FAX 03-6838-5349
E-mail bdata@ml.hco.ntt.co.jp